

学校評価についての総括評価表

◆はじめに ◆

本校では、平成27年度当初に作成しました「学校評価計画」に基づき、教育活動を進めてまいりましたが、このたび、その評価結果をまとめましたので、ご報告いたします。

評価にあたりましては、「学校評価アンケート」などを通じ、多くの貴重なご意見ご感想をお寄せいただき、誠にありがとうございました。アンケート結果は、全教職員で検討し、学校関係者評価委員会を経て、次年度に向けての教育活動の課題などを明らかにしました。今後とも、こうした学校評価結果を踏まえ、教育活動の充実・発展に努めますので、引き続きご理解とご協力くださいますようお願いいたします。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
<p>(1) 中高一貫教育を活かした系統的な指導体制の確立</p>	<p>① 学校運営面での中高連携の促進に努め、異年齢集団における社会性の育成を進める。</p> <p>② 6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。</p>	<p>① 中高合同の教育課程検討会や教科会を定期的開催する。</p> <p>② 儀式的行事や体育祭・文化祭だけでなく、必要に応じて行事等を中高合同で実施する。</p> <p>③ 特別活動などで、学年をまたがったの活動を取り入れる。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年6回、また中高合同の教科会・授業研究会を2回実施した。</p> <p>② 例年通り、入学式などの儀式的行事や体育祭・文化祭を行い、アンケート結果より、保護者・教職員のそれぞれ91%(前年度90%)・100%が、高校生との理解を深めるのに有効と回答している。ただし生徒の数値が82%(前年度87%)と減少しており、今後の行事のあり方について検討も必要である。</p> <p>③ アンケート結果より生徒の95%(前年度85%)、保護者の95%(前年度96%)が、6年間を見通した特色ある教育を行っているとは回答しており、一定の評価を得られているものとする。</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>生徒・保護者のアンケート結果では、全体の9割近くが、本校の中高一貫教育について肯定的である。特に生徒・保護者とも高い割合を保っているが、児童数の減少に伴い志願者数も減少傾向にある現状がある。本年度は本校が創立10周年の節目でもあり、今後に向け、より具体的に本校の目指す学校像を明確にし、生徒・保護者に伝えていくことが必要である。</p> <p>今年度は、数学の先取り学習などの特色ある取り組みに加え、高校生と中3生が学習面で交流するなど今後につながる試みも行われており、継続して取り組んでいきたい。</p>	<p>○中高一貫推進委員会を年6回実施して、懸案等を話し合うことで成果を上げ、学校の魅力を増し、生徒・保護者の高い信頼を得ていることは評価できる。数学の先取り学習など特色ある取り組みを、学校の存在意義として積極的に検討実施してほしい。</p> <p>○ホワイトボードを使った、数学の先取り学習であるアクティブラーニングは、中高一貫教育としてすばらしい取り組みである。どうぞ継続してやっていただきたい。</p> <p>○数学の先取り学習は今後も継続してほしい。</p> <p>○高校生による中3生への学習指導は、中3生の話聞いても有意義であると思う。ぜひ今後も続けてほしいと思います。</p>	<p>○前年度同様、数学の先取り学習に関する課題はあったが、中高一貫教育推進委員会等において検討し、引き続き継続して先取り学習を実践した結果、先取りによる効果が得られたと考える。特に今年度は「言語活動の充実に関する実践研究指定もあり、従来のSAに加え、高校生による中学3年生の学習指導など、異年齢間の交流が促進されており、今後の継続した取り組みを深めたい。</p> <p>また、高校への進学に関しては、より一層中高一貫教育の理解を得るように努める。</p> <p>創立10周年を終えるにあたり、本校の目指す学校像をこれまで以上に明確にし、生徒・保護者に伝えていくことが必要である。</p>
		<p>① 併設高校と連携し、教科会を通して6年間のシラバスづくりをする。</p> <p>② 中学生・高校生がともに参加する共通の学校行事を設定する。</p> <p>③ 生活オリエンテーションや球技大会など、学年の枠を越えた活動を実施する。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年6回実施し、一貫教育における懸案等を話し合った。特に本年度は、中高合同の教科会の他、授業研究会を実施し、互いの授業参観における感想やアクティブラーニングについての話し合いを行った。</p> <p>② 例年通りに入学式、対面式、身体計測、始業式・終業式(学期ごと)、全校集会(毎月)、文化祭・体育祭、人権教育講演会、芸術鑑賞会等を中高合同で行った。また、本年度も高校総体壮行式には中学生全員が、中学総体壮行式には高校生徒会役員が出席し互いの理解をより深めることができた。</p> <p>③ 高校生による中3生への学習指導など、新しい試みも行われた。</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		

平成27年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(3)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
(3) 生徒の能力・適性に 応じた進路の実現	① 進路指導プログラムの改善・充実を図り、 進路達成意欲を高める。 ② 三者面談・年次PTAなどにより保護者との連携強化に努める。	① 「質問タイム，補充学習（全学年）， スペシャルアプローチ（3学年対象） は役に立っている」と思う生徒の割合、 75%以上をめざす。 ② 6年間を見通したキャリア教育を実施するとともに、 それぞれの発達段階に応じたさまざまな体験活動を実施する。 ③ 「進学説明会」卒業生を迎えての授業「 ようこそ先輩」の実施を通して、 高校教育への理解を深め、今後の進路指導につなげる。	アンケート結果 ① 生徒の87%、保護者の81%が質問タイム・ 補充学習、スペシャルアプローチが有効であると回答した。 ② 生徒の95%、保護者の95%がキャリア教育や 様々な体験活動が進路の選択に役立っていると回答した。 ③ 生徒85%、保護者88%が高校からの進路説明会や、 併設高校に在籍する高校生と語り合う機会「 ようこそ先輩」が進路の選択に役立っていると回答した。	総合評価 (評定) B ----- (所見) ほとんどの項目で昨年度と数値はほぼ 同等であり、本校の進路指導におおむね 理解をいただいていると思われる。特に 様々な体験活動においては生徒・保護者 ともに高い数値が見られる。質問タイム ・補充学習については、生徒の数値が昨 年度よりも下がっているものの、目標に 近いものであった。また、高校説明会 は、生徒・保護者ともに好評であった。 高校体験入学・先輩の話も定着してきて おり、中学生にとって高校生活や進路に ついて考えるよい機会となっている。	○中高一貫校であっても、「進学説明会」 や「ようこそ先輩」の実施は、信頼して 併設高校へ進学するために重要なこと である。キャリア教育としても「ものづく り体験学習」「職業体験」は大切である。 ○6年間を見通したキャリア教育とりわけ 体験活動が進路選択に役立っている。そ の割合が生徒・保護者ともに95%はす ごい数字である。また、「ようこそ先輩」 も大いに進路選択に役立っていることが わかった。 ○高校生との交流をもっと活発にしてほ しい。 ○大学視察は素晴らしい企画なので継続 してほしい。 ○高校生との異年齢間交流により、高 校生活や今後進むべき道のイメージが 作られているようです。生の声を聞く ことによりより具体的に進路等につ いて考えることができる素晴らしい機 会だと思います。	○進路指導体制の確立をはかり、1学 年から計画的に進路指導を行うとと もに、高校との効果的な連携をはか る。 ○フューチャー・体験活動について は、これまで同様、6年間を見通し ながら、生徒の実態に沿った内容で 柔軟にプログラムを組むことが重要 である。 ○併設高校に在籍する高校生と語り 合う機会は、高校からの説明をより 具体的に示すものとして好評であり、 今後も継続して実施したい。	
							活動計画 ① 質問タイム，補充学習（全学年）， スペシャルアプローチ（3学年対象）を 実施する。 ② 6年後の目標を持たせる「キャリア 教育」を実施する。 ③ 3年生を対象とした川島高校による 進学説明会・卒業生を迎えての授業 「ようこそ先輩」を実施するとともに、 川島高校体験入学への参加を定着さ せる。 ④ 生徒の進路指導充実のため、家庭訪 問，三者面談，個人面談を充実させ る。

平成27年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(4)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題	
		評価指標			評価指標による達成度			
						総合評価		
(4) 基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	① 生徒一人一人の自覚を促し、基本的な生活習慣を身につけさせる。 ② あらゆる教育活動をおとして、きめ細やかな生徒指導を行いいじめ防止等の取り組みに努める。	① 校則や交通ルールの遵守をめざす。特に登下校時の交通事故ゼロに努める。 ② あいさつの励行、90%以上をめざす。 ③ 携帯電話の安全教育について充実を図り、マナー向上や不正使用の問題解決を推進する。 ④ いじめ防止、早期発見に努め、問題の背景や環境要因も考慮し適切な解決に努める。	① アンケート結果 校則、交通ルールに関して生徒93%(昨年95%)保護者95%(昨年95%)が守れていると回答。安全意識は高いが事故は起きている。 ② アンケート結果 生徒76%(昨年78%)、保護者88%(昨年89%)があいさつをよくしていると回答。 ③ 携帯電話に関しては、生徒88%(昨年92%)、保護者88%(昨年84%)が正しく使用していると回答した。使用に関して危機感が感じられない。 ④ アンケートや「至誠ノート」を始め普段の生活状況等を通して担任が注意深く観察し、いじめ早期発見に努める。また、校則違反や問題行動等が見受けられた場合、速やかに保護者に連絡を取り、面談の場を持った。交通事故防止等を集会等で指導するほか、登下校時立哨指導を実施した。	(評定) B ----- (所見) 自転車運転中の自損事故や交通事故が毎年発生している。交通事故は幸いにも重大な事故には至っていないが交通ルールやヘルメット着用の指導を徹底したい。 携帯電話やスマートフォンの所持に教員は危機感を持っている。メールやラインを遊びに利用し、様々な問題が発生している。また、JR車中での使用(ゲームを含む)が増加傾向にある。これは学校の指導だけでなく、保護者の協力が不可欠である。中学生集会や、学年集会を利用して、自己肯定感や生命の大切さについて指導した。また、おもしろ半分勝手に写真や動画を掲載することは許される行為ではなく、人権侵害やいじめ等、重大な事件につながる恐れがあることを指導した。さらに規範意識についても指導してゆきたい。	○ 「携帯電話校内使用禁止」が校則として守られていることは、素晴らしい指導実績だと思う。メールやラインを遊びに利用し、様々な問題が発生しているのは、どの学校でも問題になっている。いじめにもつながっており自己肯定感の育成や規範に式の醸成に一層努めてほしい。 ○ 地域住民の声として、生徒の挨拶はもっとできているように感じる。それは、部活動をしている生徒がいつも大きな声で挨拶してくれるからかも知れないが、住民をさわやかに心地よくしてくれていることに感謝したい。 ○ 携帯電話・スマホの使い方について(SNS等)、もっとプライバシーの保護について徹底して教育してほしい。 ○ 自転車の乗り方が良くない特に国道および交差点。 ○ あいさつは、校内外においてよくできておりすばらしいと思います。通学時の自転車のマナーと携帯電話、スマートフォンの使用については、家庭での指導が第一ですが、学校においても引き続き指導願います。	○ 全項目について指導の徹底を図るが、特にあいさつの励行については校外での登校、下校時についても呼びかけをして100%の実施につなげたい。 ○ 家庭と密接に連携し、安全で安心して生活できる学校づくりを推進していく必要がある。 ○ 問題行動には携帯電話やスマートフォンを使用したメールのやりとりが多い。そこで、外部機関を利用した携帯電話安全教室のより一層の充実を図り、トラブル防止の徹底をしたい。 また、定期的にアンケート等を実施して生徒の生活状況を把握し、いじめ等の問題行動を未然に防ぎたい。		
							① 社会や学校のルールやマナーを守り、お互いが気持ちよく安全な生活が送れるようにする。また、自転車通学生のヘルメット着用や並進等を指導し、登下校時の事故やけがの防止に努める。 ② 生徒相互、教職員、来客者に対するあいさつを徹底させる。特に全校集会等で生徒会本部役員とタイアップしてあいさつ運動を推進する。 ③ 外部講師による講話や講習会を毎学期に実施し、トラブル防止を推進する。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室 ・携帯電話安全教室 ④ 生徒指導委員会やいじめ防止対策委員会機能を活性化し、携帯電話の不正使用やいじめ予防教育の推進に努める。	① 入学者説明会等で、生徒や保護者へ校則の周知徹底を図った。さらに同日、県警サポートセンターによる携帯電話使用の講演を実施した。新入生へのオリエンテーションの実施 毎月の指導週間の実施 JR乗車指導の実施・JR山川駅駐輪場使用状況調査 全校集会後の中学生集会の実施 常時指導の徹底 ② 全校集会後の中学校集会の実施 交通講話の年1回 今年度より犯罪被害者による講演会を実施 自転車点検の実施 ③ 生徒会によるあいさつ運動の実施 毎月の指導週間の実施 外部講師による安全教室の実施 常時指導の徹底 ④ 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室の実施 携帯電話安全教室の実施 薬物乱用防止街頭ヤングキャンペーン参加 非行防止作文、ポスター及び飲酒防止ポスター作成
			活動計画			活動計画の実施状況		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題	
		評価指標		評価指標による達成度				
			活動計画	活動計画の実施状況				
<p>(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進</p>	<p>① 人権教育指導計画の改善と、“あわ”人権学習ハンドブックの活用を図る。</p> <p>② 人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。</p>	<p>①「本校の人権学習の内容は適切であり、人権教育は充実している。」と思う生徒の割合、90%以上をめざす。</p> <p>②「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合、90%以上をめざす。</p> <p>③「人権を大切にしている教育活動が行われている。」と思う保護者の割合、90%以上をめざす。</p>	<p>① 生徒の実態に即した学習主題を設定し、個別的な視点と普遍的な視点の双方を加味した学習を組み立てていく。また、“あわ”人権学習ハンドブックの活用を努める。</p> <p>② 生徒一人一人を生かし、大切にす学級づくりを推進する。その中で、いじめは、人権にかかわる重大な問題であり、絶対に許されない行為であることを徹底して指導する。また、よりよい人間関係を築き、コミュニケーション能力を育成するために、体験的参加型学習を多く取り入れる。</p> <p>③ 人権委員会の活性化を図るとともに、全校で意見交換を行う機会を設けることで、生徒が主体的に学んでいこうとする意欲や態度を育成する。</p> <p>④ P T A 人権教育推進委員会の活動の活性化を図る。保護者の意見を取り入れながら人権教育を充実させていく。</p>	<p>① アンケート結果 生徒 78%、保護者 78%が、「生徒は人権学習に積極的に取り組んでいる。」と回答。</p> <p>② アンケート結果 生徒 83%、保護者 81%が、「生徒は人権について学習したことを日常生活に活かそうとしている。」と回答。</p> <p>③ アンケート結果 生徒 85%、保護者 84%が、「本校では人権を尊重する考え方や態度を育てる教育が行われている。」と回答。</p>	<p>① 各教科における人権教育年間計画を作成し、授業や学校生活の中で人権教育の推進を図った。 ・“あわ”人権学習ハンドブックや「わたしの願い」を活用し、普遍的な視点と個別的な視点を結び合わせながら、各学年で共通の内容の学習を進めていった。クラスを越えた意見交換も行っていった。</p> <p>② 人間関係を築く能力やコミュニケーション能力、他の人の立場に立って考えられるような想像力を培うために、また学んだことの態度化・行動化につなげるために、生徒の実態を把握するとともに授業形態も工夫した。 ・学期に1回は生活アンケートを行い、生徒一人一人や学級・学年・学校の実態を把握することに役立てていった。情報モラルに関するアンケートも行い、インターネットによる人権侵害を未然に防ぐための授業を行った。 ・スクールカウンセラーによる人間関係づくりのワークショップを実施し、協力しながら生徒の指導に生かしている。 ・生徒が主体的に参加し、体験することで人権感覚を身につけることができるよう、体験的参加型学習を多く取り入れた。 ・識字学級訪問(2年生 8月)</p> <p>③ 人権委員会の活性化を図った。 ・校内人権問題意見発表会を実施(6月) ・月1回「人権の日」を設け、中高合同で様々な人権問題について考える時間を持っている。校内放送でも、学んだことや自分たちの思いを全校生徒に向けて発表した。</p> <p>④ P T A 人権教育講演会 ・笹岡郁子さんによる講演(11月) 「ひとりひとりが輝くために」</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>本校は、多くの小学校から入学してきているという実態があり、人間関係づくり仲間づくりを大切にしながら、日々実践を重ねている。話し合い活動や表現活動を多く取り入れ、コミュニケーションの能力を養う機会を多く設けており、生徒が主体的に学習に取り組めるような授業形態を工夫している。体験的参加型学習は、生徒が積極的に学んでいくために効果的であった。 インターネットと人権侵害について学ぶことで、加害者にも被害者にもならないために、さらに学んでいきたいという意欲を持つことができたようだ。 さらに、学習したことがら態度化・行動化につなげられるような工夫をしていく必要がある。そのために、教職員の研修を充実させるとともに、生徒の校外での研修や外部講師による学習も積極的に取り入れていきたい。 中高合同で行っている「人権の日」の校内放送は、視野を広め考えを深めるために役立っている。さらに、高校生と共に学んでいく機会を設けていきたい。</p>	<p>○「人権の日」を設け、生徒が、学んだことや自分たちの思いを校内放送で発表することは、とても大切では是非継続していただきたい。勉強だけでなく、人間関係づくりの取り組みも一層お願いしたい。</p> <p>○生徒は様々な学校から来て互いに出会い、新しく人間関係づくりやコミュニケーション能力が必要になってくる。そのために、相手の立場で考える力や態度化につなげていく日々の営みや、体験的な学習や参加型学習など、先生方が連携して工夫したことがよくわかります。</p> <p>○携帯電話・スマホ等の使い方によって、人権侵害の恐れがあるため、その対策として講習会を複数回実施してほしい。</p> <p>○本校生徒は様々な小学校から入学していることもあり、入学当初は人間関係の構築に苦労している生徒もいるようです。相手の気持ちが理解でき、コミュニケーション能力を備えた大人になれるよう、引き続きご指導願います。</p>	<p>○生徒一人一人とじっくり向き合いながら、人権教育の土台である人間関係づくり・仲間づくりをこれからも継続的に進めていきたい。すべての教育活動の中で、自分も人も大切に、大切にされる集団をつくっていく取組を日々続けていきたい。</p> <p>○人権教育で学んだことの実践化のために、学習内容・学習形態をさらに工夫していく必要がある。教師自身も研修を重ね、人権感覚を磨いてきたい。</p> <p>○インターネットによる人権侵害の加害者にも被害者にもならないために、さらに学習を深めていく必要性を感じている。</p> <p>○中高の連携をさらに図りながら、合同で学んでいく機会を増やしていきたい。</p> <p>○P T A 人権教育講演会など、さらに保護者との連携をとりながら、人権教育を推進する必要がある。</p>

平成27年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(6)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
(6) 心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実	① 学校行事，生徒会活動を通じて生徒の自主性の育成に努める。 ② ホームルーム活動(学級活動)や部活動のより一層の活性化を図る。	① 学校行事(体育的活動)に積極的に参加をさせる。 ② 学級活動(体験活動)の充実を図る。積極的に部活動への参加を促す。	① アンケート結果 生徒 95% 保護者 92% が学校行事が適切に行われていると回答。 ② アンケート結果 生徒 97% 保護者 95% が学級活動は，豊かな心を育むために役立っていると回答。		(評定) A ----- (所見) 学級や学校の一員として望ましい人間関係を形成し，よりよい生活づくりを参画し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てることができた。	○「学校行事が適切である」や「学級活動が豊かな心を育む」に対して生徒・保護者から高い支持を受けている。中高一貫教育の特色を生かした取り組みが大きな成果に結びついている。 ○学校行事や学級行事に生徒保護者が積極的に参加し，学校が活性化している様子がわかります。学校行事に生徒・教師・保護者が積極的に参加し成功させようと燃えることが愛校心や自尊感情を高めていく。 ○部活動をもっと活発にしてはどうか？(生徒の選択肢を増やし，他校との合同チームを結成する等，可能性を探る。 ○本校の学校行事は充実しており，さらに健康な生徒を育てよう今後も指導をお願いします。	○学校生活や生徒会活動，学級活動の目的を再度見直し，より充実した学校生活を生徒が送れるよう不断の改善を図っていきたい。
			① 目的や運営のあり方を見直し，学校行事をより充実したものにする。 ② 各生徒会専門委員会の意義や役割を周知し，生徒が自主的に活動出来るように生徒会活動の活性化が図れるようにする。 ③ 学校生活や学級における身近な課題を話し合い，総合的見地から自主的・実践的に学級の合意が図れるよう指導する。	活動計画の実施状況 ① 学校行事 入学式 4月 忌部の郷めぐり 4月 修学旅行 6月 体育祭，文化祭 9月 遠足 11月 球技大会 12月 ② 専門委員会 専門委員会を定期的実施し，呼びかけや活動について，中学生集会で全校に周知徹底した。 ③ 特別活動の各領域を通じて，望ましい人間関係を形成し，集団や社会の一員としてよりよい学習生活づくりに参画しようとする態度を育てることができた。また，生徒が学校や学級への所属感や連帯感を深め，協力して諸問題を解決し，よりよい学校，学校生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てることができた。			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
						総合評価	
<p>(7) 環境教育及び国際理解教育の推進</p>	<p>① 新学校版環境 I S O に取り組むなど環境保全活動に努める。</p> <p>② 国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。</p>	<p>① 新学校版環境 I S O 認証校として、清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、「ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答する生徒の割合、80%以上をめざす。また、電気、水道の使用量については、前年度より増えないようにする。</p> <p>② 本年度実施の海外語学研修に向け、適切な準備を行う。大学の教員などを講師として招き、国際理解についての講演会を実施する。</p>	<p>① アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気、水道の使用量は、ほぼ前年度と同じであったが、生徒の67%が、新学校版環境 I S O 認証校として、「清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と回答しており、目標値80%より13ポイント低い結果となった。 <p>② 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 語学研修の参加希望者とその保護者を対象に、説明会を実施し、参加生徒には事前学習を実施することで、研修に臨む意識を高めることができた。 79%の生徒が国際的視野を広げるの役立ったと回答している。 	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>「清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と答えた生徒が目標値より13ポイント低い結果となり、生徒の意識を高めることができなかった。</p> <p>国際理解教育において、「世界の中の日本」「日本との文化や考え方の相違」を知ることで、自分の行動について考えを深める機会とした。</p>	<p>○ 語学研修に多くの生徒が参加されることは、高く評価できる。清掃や美化活動に対する問題意識までの気持ちを気長に育てていただきたい。</p> <p>○ 節電、節水、ゴミ分別は具体的な目標が必要。ある程度は学年対抗、クラス対抗でよくできた学年表彰、クラス表彰があっても良い。国際理解教育は異文化を知り理解することだけでなく日本の良さや川島中の良さを海外に発信も可。</p> <p>○ 国際交流は、予備知識も必要だと思うので(社会背景等)その教育も必要ではないか。</p> <p>○ 使用電気料や水道料を数値化して明示してはどうか？</p> <p>○ 今後も重要度が増すと思われますので「環境教育」「国際交流」の時間を増やすなど積極的に行ってほしい。</p>	<p>○ 生徒が「新学校版環境 I S O」についての理解を深め、行動に移せるように、環境委員会を中心とした活動を再考し、改善を図ることが必要である。</p> <p>○ 国際交流の充実を図ることは、日本に生きる自分の立ち位置を知ることでもあるので、「交流会」ではなく「知る」活動をどのように取り入れていくのが課題である。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>① 新学校版環境 I S O 認証校として、清掃活動やリサイクル活動の充実を図り、生徒会活動の専門委員会活動の中で自主的な活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境委員が「節電・節水ポスター」を作り、意識の高揚を図る。 各クラスのエコ係をおき、節電に努める。 各クラスに古紙 B O X を配置する。 エコキャップ、使用済み切手の回収を呼びかける。 <p>② 国際交流</p> <p>海外語学研修の現地校の教員などと協力し、事前学習・現地学習・事後学習を充実させる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 環境委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 節電・節水状況を調査、記録した。 文化祭の際、ゴミが分別できるようにゴミ箱を製作し、設置した。 ポスターを作成し節水・節電を呼びかけた。 各クラスのエコ係が、教室の冷暖房や電気の管理を行い、無駄な使用がほとんどなかった。 裏面利用できる紙は分別し、再利用を行った。 エコキャップ、使用済み切手の回収を行った。 <p>② 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休みに実施した第5回海外語学研修では、中高合わせて20名の生徒が参加し、事前学習を重ねた上で現地での学習を行ったので、有意義な研修となった。 学校祭では、参加生徒が撮った写真などを掲示し、学校内外の多くの人に、研修の成果を知っていただけた。 				

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(8) 開かれた学校づくりと安全教育の推進</p>	<p>① 地域貢献活動等などの活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実を図り、家庭や地域の連携を深めるとともに、外部評価結果を活かす取り組みの推進。 ② 地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 参観日や学校行事等、保護者が学校に来る機会をできるだけ多く設けるとともに、「参観日や学校公開の日など、保護者が学校に来る機会が多くある」と思う生徒及び保護者の割合、80%以上をめざす。 ② ホームページやメール配信により学校の様子を伝える。「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている」と思う保護者の割合、80%以上をめざす。 ③ 防災避難訓練に真剣に取り組んでいる生徒の割合、80%以上をめざす。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>① アンケート結果 生徒 85%、保護者 97%が、「参観日や学校公開の日など、保護者が学校に来る機会が多くある。」と回答している。 ② アンケート結果 保護者 85%が、「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている。」と回答している。 ③ 生徒の取組状況はおおむね良好であり、積極的に活動することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>授業参観の参加率は79%と昨年度に比べさらに2ポイント上昇したがこれは1年生の参加率が非常に高かったからである。1年生は仕事の都合で来られない方以外ほとんどの保護者が来られておりまた、家族で来られている人もいた。この良き伝統を守っていききたい。</p>	<p>○「ホームページやメールの発信」について役立っていると高く評価されている。校内合唱コンクールなど取り組みは効果的に行われている。 ○保護者の参観日や学校行事への参加率の多さにびっくりする。保護者の学校への期待が高いことの現れと思われる。先生方と生徒のアットホームな雰囲気や関係にも好感を持ち支援している保護者が多数いるということである。 ○中高一貫教育をもっと宣伝すべきでは？ ○PTA活動に参加して良かったことをもっとPRすべきである。 ○本校は保護者が学校に来る機会を多く設けており非常にすばらしいと思います。学校のHPは多くの保護者が見ており内容、更新頻度等さらに充実してほしい。</p>	<p>○本校の大きな特色である授業参観等の高い参加率を維持するために、教師が平日頃の授業から内容の充実から心掛けなければならない。 ○外部講師を招いての様々な授業は有意義であるが、その分通常の授業時間の確保が問題となってくる。行事の精選も考えなくてはならない。特に今年は第九合唱の練習も重なって生徒も教師もたいへん慌ただしかった感は否めない。来年の第九練習では、負担を減らし、かつ効果的な練習のあり方を工夫しなければならないと思う。 ○ホームページの更新をもっと早くするために、教師全員が更新に関わるように教師のスキルを高める研修をしなければならない。 ○防災学習をカリキュラムの中に適切に位置づけ、より効果的な学習が行われるよう工夫していきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① 保護者や地域に開かれた学校づくりとして、授業参観、学年部会、中高一貫教育懇談会等を開催する。 ② 専門的な知識や技能を有する地域の方を招聘しての学びの機会をさらに増やすことにより、多様な学習活動の充実と地域の方の本校教育への理解を深める。 ③ 本校の特色を地域に理解してもらうため、パンフレットなどを作成し、近隣小学校に配布するとともに、小学校保護者を対象とした説明会を実施する。また、ホームページも充実する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 授業参観3回、参加率79%程度 中高一貫教育見学会(7月) 参加者105名 とくしま教育の日(11月) 学年部会(5月) 高校説明会 3学年対象(7月) 高校説明会 2学年対象(10月) 校内合唱コンクール(3月) ② 外部講師を招いての主な授業 薬物乱用防止教室 全学年4月(2名) 携帯電話安全教室 全学年4月(1名) AED講習会 全学年6月(10名) 防災学習 全学年7月(1名) 人間関係づくりワークショップ 1年7月(1名) 大谷焼き陶芸教室 1・2年7月(3名) 先輩から学ぶ 2年10月(10名) 職場体験学習事前学習 2年10月(1名) 保育実習 1年12月(12名) 思春期学習講座 3年12月(3名) 防災講演会 全学年2月(1名) 防災学習出前授業 1年2月(1名) 第九合唱練習 7月～12月 計9回(25名) 他</p>	<p>「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている。」と回答した保護者は85%である。これは昨年と同じ数値であるが「ホームページの更新をもっと積極的にして欲しいとの声もあった。」</p>		
		<p>④ 小学6年生とその保護者を対象とした入学者募集説明会を実施する。 ⑤ 防災避難訓練にあたっての事前、事後指導の徹底をはかり、総合的な学習の時間で防災を扱う。</p>	<p>③ パンフレットを作成し、近隣の小学校に配布するとともに、訪問説明会を22校で実施した。また、ホームページの更新や、メール配信を随時行うことにより、学校の様子を保護者に伝えた。 ④ 10月に実施、参加者96名。その時に企画広報委員会で作成した広報誌「絆」も配布した。</p>	<p>中高一貫教育見学会の参加者は昨年に比べて70名減と大幅減となった。また、入学者募集説明会の参加者も12名減であった。</p>		
		<p>⑥ 防災クラブの活動の活性化を図るための取り組みを行う。</p>	<p>⑤ 中高合同の避難訓練(2回)やJアラート訓練など、生徒は積極的に参加し、学年単位で防災に関する授業を行った。防災講演会や防災クラブの活動を通して、全校生徒、保護者の防災・減災への意識の向上を図った。 ⑥ 校舎内ガラスに飛散防止シート貼付作業の実施、防災講演会や防災研修会、地域防災訓練等に参加した。</p>	<p>本校の防災学習や避難訓練には保護者の82%から肯定的な評価を得ている。</p>		